

都市ビジョン と財政状況



令和2年10月
静岡市

目次

第1部 静岡市の都市ビジョン

プロフィール

アクセス、温暖な気候(交通、気候)	1
広域な市域、人口(面積、人口)	2
広域な都市圏の中心(静岡大都市圏及び商圏人口)	3
バランスのとれた産業の集積(産業構造、商業の集積)	4
地域に根づく企業(市内に立地する主な企業)	5

第3次静岡市総合計画

世界に存在感を示す3つの都心づくり～5大構想～

生活の質を高める2つの仕組みづくり～5大構想～

静岡市のSDGs推進に向けた取組

新型コロナウイルス感染症対策

防災・減災の取組

地域経済の活性化

産業振興の取組

行財政改革の推進

第2部 静岡市の財政状況

決算

決算の概要(普通会計)	21
決算の推移(普通会計)	23
市税の状況	25
扶助費及び投資的経費の政令市比較	26
財政指標・健全化判断比率の推移	27
基金残高の状況	28

市債の状況

市債発行の推移(普通会計)	29
市債残高の推移(普通会計)	30
プライマリーバランスの推移(普通会計)	31

投資的経費の推移と今後の展望

財政の中期見通し

【表紙の写真(SDGsポスターから時計回り)】

- ・豊かな自然が残る中山間地域「奥静岡」＝「オクシズ」
- ・日本有数の茶どころ 静岡の茶畑のティーテラス「茶の間」
- ・国道1号線と東海道新幹線が走る中心市街地
- ・日本夜景遺産「日本平」からの花火
- ・徳川家康の大御所時代の居城である「駿府城 坤櫓」
- ・アジア最大級のストリートシアター・フェスティバル 大道芸ワールドカップin静岡
- ・国際拠点港湾「清水港」へのクルーズ船の入港
- ・駿府大御所時代絵巻 静岡まつり 城下総踊り「夜桜乱舞」
- ・世界遺産富士山の構成資産「三保松原」の魅力発信拠点「みほしるべ」
- ・生誕500年を迎えた静岡ゆかりの戦国武将「今川義元公」像
- ・世界農業遺産・日本農業遺産認定「静岡水わさび」

第1部 静岡市の都市ビジョン

プロフィール ～アクセス、温暖な気候～

交通環境

優位なアクセス環境

供用開始

- 中部横断自動車道(新清水JCT－双葉JCT間)
令和3年夏ごろ全線開通予定
(静岡、山梨両県庁間の所要時間が約1時間短縮)
- 日本平久能山スマートインターチェンジ
(静岡IC－清水IC間に令和元年9月14日供用開始)
- 東海道新幹線
- 清水港[国際拠点港湾]コンテナ取扱量8位(令和元年度)
- 駿河湾フェリー「県道223(ふじさん)号」(清水港⇄土肥港)
- 東名高速道路、新東名高速道路
- 富士山静岡空港



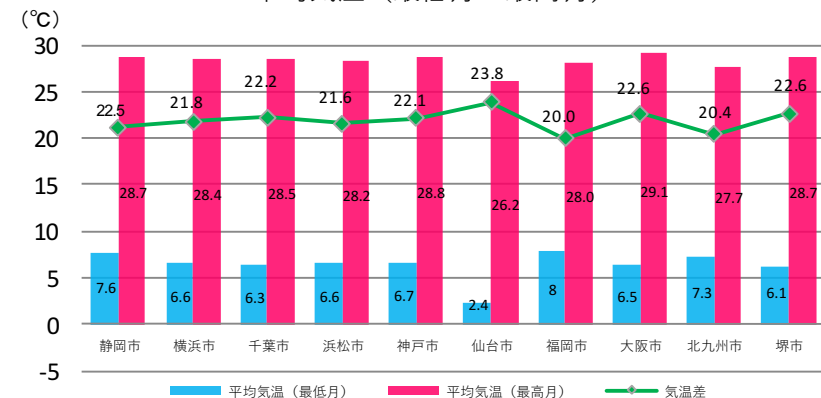
気候(令和元年度)

温暖な海洋性気候、豊富な日照量

- 年間平均気温 17.8℃
- 年間平均気温差 21.1℃
…平均気温の最低月、最高月の気温差が政令市中4番目に小さい
- 年間日照時間 2,119.3時間…政令市中5番目に長い
- 年間雪日数 0日…政令市中最も少ない

出典：気象庁「気象統計情報」(令和元年度)

平均気温(最低月・最高月)



プロフィール ～広大な市域、人口～

面積

全国市区町村で6番目、
政令指定都市では2番目の広さ

- 市域面積 約1,412km²
- 都市計画区域面積 約 235km²



静岡市

人口

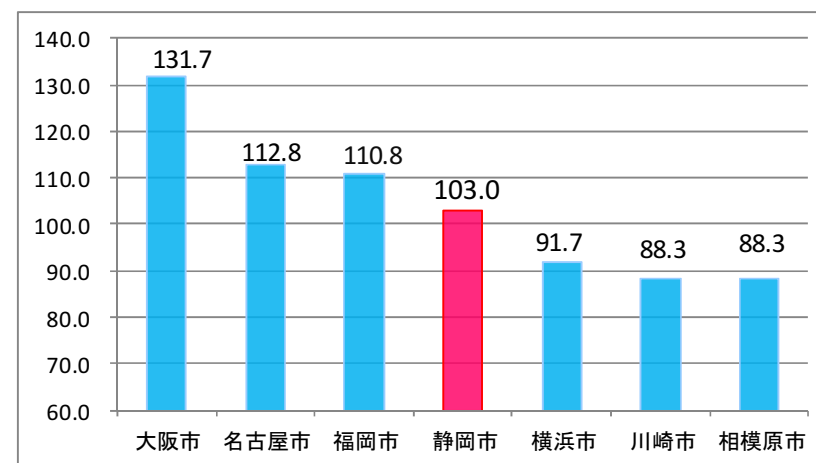
人口 695,928 人
(住民基本台帳人口(日本人+外国人))

※令和2年8月末日現在

昼夜間人口比率 103.0
(政令指定都市中第7位)

※総務省「国勢調査」(平成27年度)

% 昼夜間人口比率の政令指定都市比較



プロフィール ～広域な都市圏の中心～

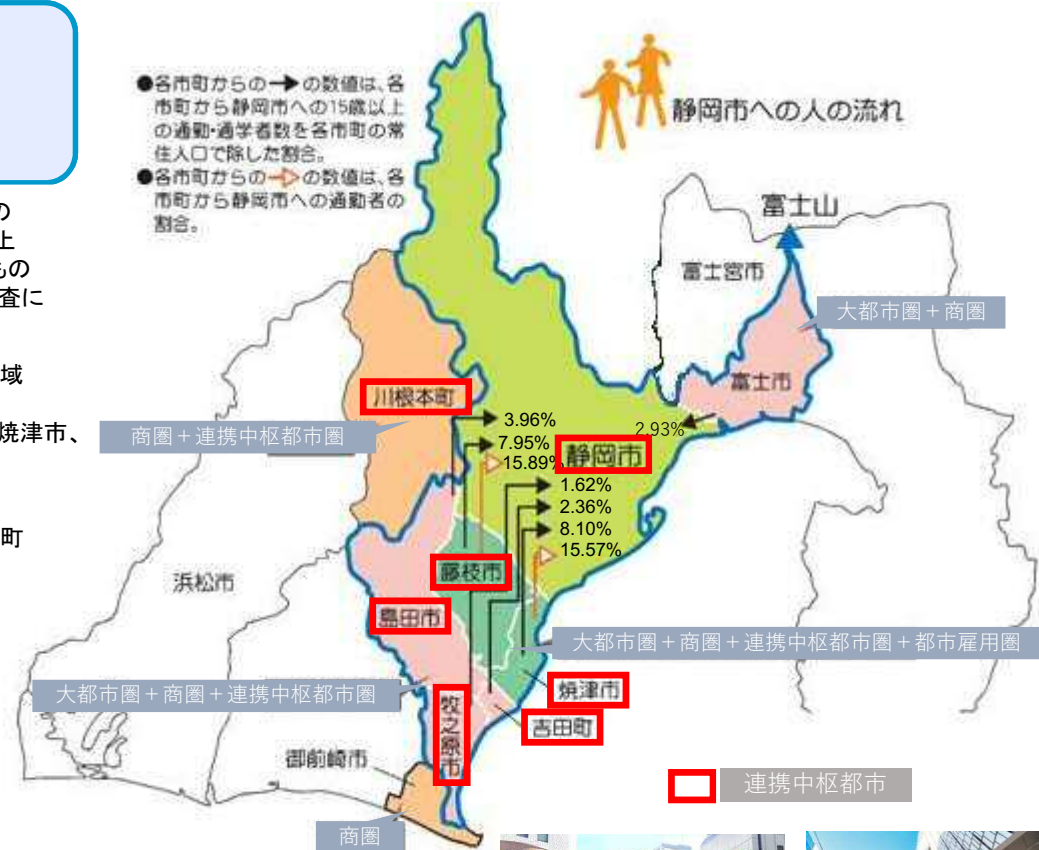
静岡大都市圏及び商圈人口

大都市圏人口 約138万人
 商圈人口 約158万人

- ※大都市圏 中心市(静岡市)に加え、中心市への15歳以上の通勤・通学者が当該市町の常住人口の1.5%以上あり、かつ 中心市と接続している市町を加えたもの(大都市圏の範囲については、平成17年国勢調査における大都市圏に基づく)
- ※商圈 消費需要(購買力)の5%以上を吸引している地域
- ※連携中枢都市圏 静岡県中部5市2町(静岡市、島田市、藤枝市、焼津市、牧之原市、吉田町、川根本町)
- ※都市雇用圏 通勤者のうち10%以上が静岡市に通っている市町

商圈の核となる駅周辺区域に立地する主な大型商業施設

松坂屋	24,372㎡
静岡伊勢丹	21,525㎡
静岡パルコ	22,036㎡
丸井	13,456㎡
新静岡セノバ	27,265㎡



資料：○総務省「国勢調査」(平成27年度)
 ○静岡県「静岡県の消費動向」(平成19年)
 を基に算出



けやき通り、呉服町通り(葵区)



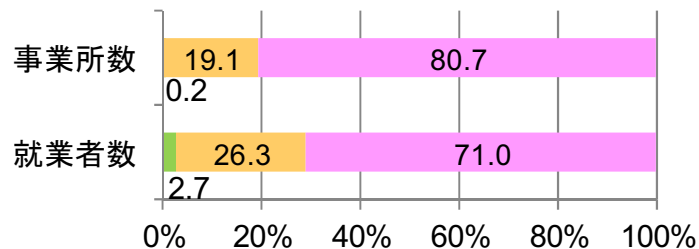
静岡市

プロフィール ～バランスのとれた産業の集積～

産業構造

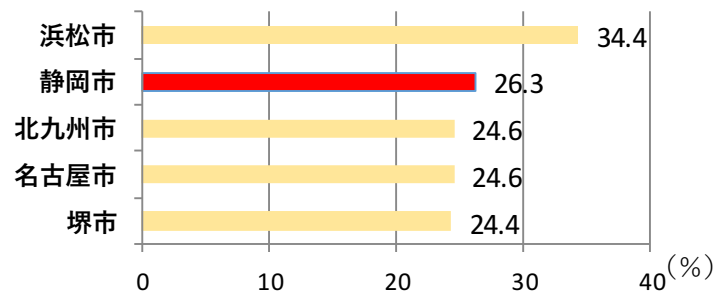
- 第3次産業の商業を中心とした都市
- 清水港周辺を中心とした製造業の立地が多く、第2次産業の割合も高い。
- 茶、みかんを中心とした第1次産業

事業所数・就業者数



出典：総務省「平成28年経済センサス活動調査」
「国勢調査」(平成27年)

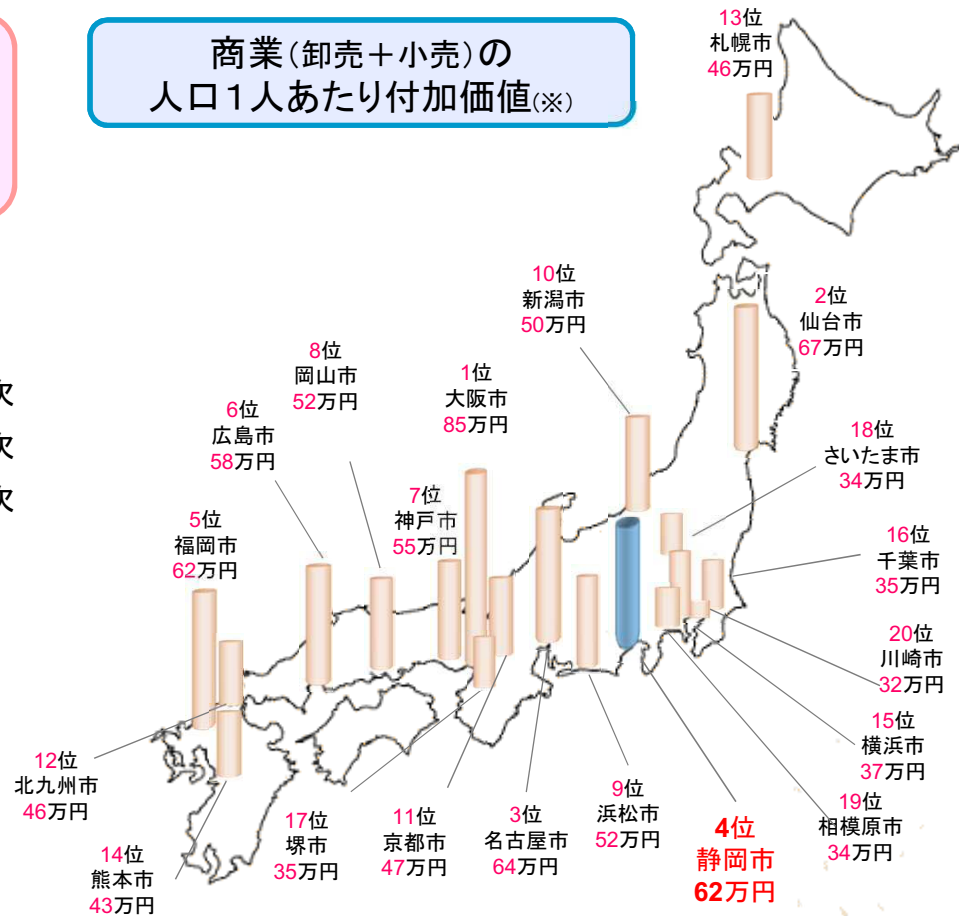
第2次産業就業者数 構成比



出典：総務省「国勢調査」(平成27年)

商業の集積

商業(卸売+小売)の
人口1人あたり付加価値(※)



※付加価値額：
「売上高－費用総額＋給与総額＋租税公課」で算出され、商業における営業利益と人件費などの合計。
付加価値が大きいことは、顧客吸引力のある商業都市であることを表し、安定した雇用と税収が確保できる。

資料：総務省「平成28年経済センサス活動調査」、「国勢調査」(平成27年) より算出



静岡市

プロフィール

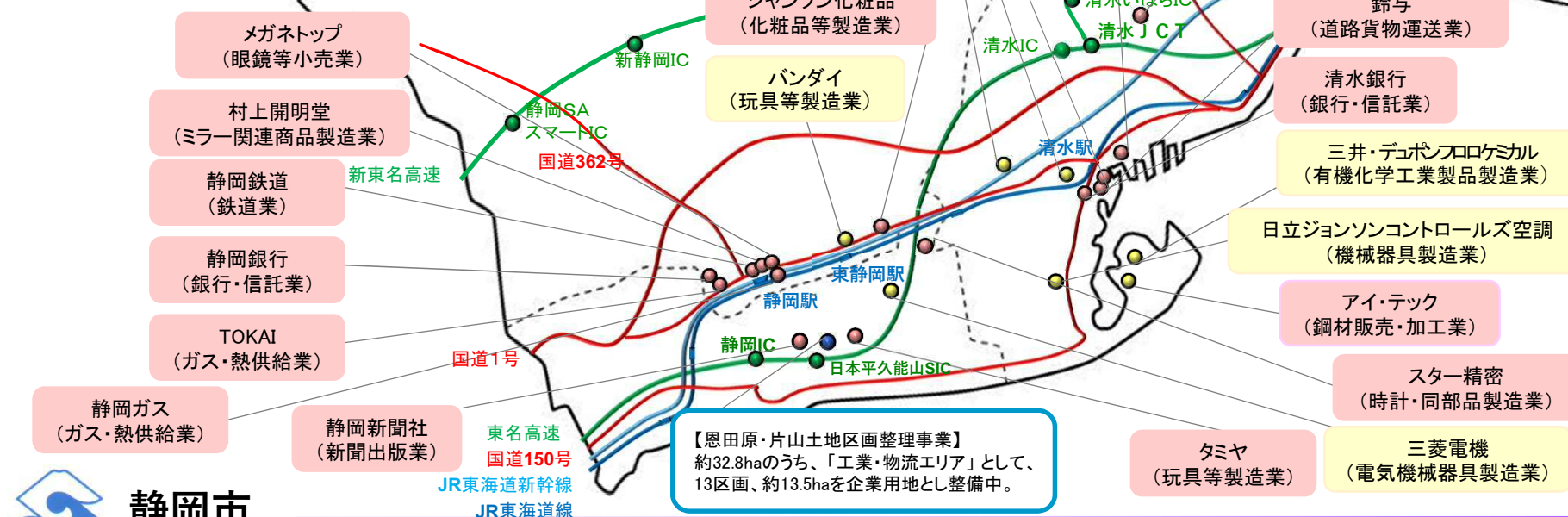
～地域に根づく企業～

市内に立地する主な企業

法人市民税収全体に占める
上位10社の割合

年度	29年度	30年度	元年度
上位10社の占有率	20.5%	23.5%	23.5%

特定企業に傾斜していないことから、特定企業の業績に左右されない、安定した構造となっている。



静岡市

第3次静岡市総合計画（平成27年度～令和4年度）

3次総のまちづくりの目標 「世界に輝く静岡」の実現

平成27年度 重点プロジェクト（18政策）

「創造する力」による都市の発展（産業・経済の振興）

「つながる力」による暮らしの充実（安心・安全の確保）

歴史都市

- ① 400+プロジェクトの推進（駿府城公園エリアの整備等）
- ② 「東海道歴史街道」（二峠六宿）の推進
- ③ 三保松原の保全と活用

文化都市

- ① 東静岡・草薙地区の賑わい創出
- ② 清水港ウォーターフロントの活性化と整備促進
- ③ 「まち劇場」の推進とオクシズ・しずまへの振興

中枢都市

- ① 首都圏等からの移住・定住の促進
- ② MICEの推進等による交流人口の拡大
- ③ 戦略産業への支援・育成

健康都市

- ① 健康長寿のための静岡型地域包括ケアシステムの構築
- ② 静岡型子ども・子育て支援の推進
- ③ 健康都市の実現に向けた基盤整備

防災都市

- ① 災害対応力の強化と危機管理体制の確立
- ② 浸水・土砂災害の拡充
- ③ 再生可能エネルギーの導入・普及促進

共生都市

- ① 多様な人々による共生
- ② 南アルプスユネスコエコパーク・自然との共生
- ③ まちづくりは人づくり・シチズンシップ

世界を意識した都市ビジョンをわかりやすく整理

18政策 → 5大構想へ

平成28年度 5大構想

世界水準の都市「静岡市」を目指して

その都市に暮らす人々が「安心感」をもって生活を営むことができ、その都市を訪れる人々が「満足感」をもってひとときを過ごすことができる都市。この「安心感」と「満足感」を兼ね備えた世界水準の静岡市づくりに取り組みます。その原動力とするために強く打ち出したのが＜5大構想＞です。

世界に存在感を示す3つの都心づくり

歴史文化の
拠点づくり

海洋文化の
拠点づくり

教育文化の
拠点づくり

生活の質を高める2つの仕組づくり

「健康長寿のまち」
の推進

「まち劇場」
の推進

3次総と親和性のあるSDGsを
5大構想に取り込む

平成30年度



SDGs

世界共通のものさし
(2016～2030)



静岡市

5大構想

～世界に存在感を示す3つの都心づくり①～

歴史文化の拠点づくり

徳川家康公が晩年暮らした駿府城公園周辺の魅力を高める取組を通じて、来街者の増加や地域活性化を図り、「平和都市・静岡」を世界に向けてアピール。



駿府城跡天守台発掘調査・見える化の推進



駿府城跡天守台遺構
現場見学会
(平成31年2月23日)

駿府城天守台の正確な位置や大きさ、石垣の状態等を把握するため、平成28年8月から発掘調査を開始し、大御所家康が築いた日本一の大きさの天守台や、豊臣秀吉の関与をうかがわせる天守台と小天守台、金箔瓦の発見等の成果があった。発掘現場は常時見学できるよう「見える化」し、観光資源としても活用している。

今後は、この貴重な遺構を活かし、保存と活用を両立させた野外展示として整備を推進する。

お堀の水辺活用事業

駿府城公園の中堀において、舟で遊覧できる体験環境を整備し、駿府城公園周辺エリアにおける新たな歴史観光コンテンツの一つとして、静岡都心の賑わいを創出を目指す。



「葵船」の試験運行の様子

歴史文化拠点整備事業

本市への愛着と憧れを生み出すため、歴史文化のまちづくりの拠点となる歴史文化施設を整備し、令和5年春の開館を目指す。

本事業は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて一時停止したが、新しい生活様式等を踏まえた設計の見直しを行い、コロナ後の本市全体の経済活性化を目指すために、事業を再開した。

令和2年度は、歴史文化施設の分館として位置付けられた、東御門・翼櫓の展示改修を実施。



歴史文化施設イメージ図



駿府城 東御門

追手町音羽町線等にぎわい空間の創出

駿府城公園と商業地区との間に位置する市道について、「駿府城公園とおまちを繋ぐ魅力ある道」となるよう、官民連携によるにぎわい創出、歩いて楽しいまちづくりを推進。

令和2年10月17日より、都市再生推進法人による水辺デッキを活用した賑わい創出活動を開始予定



整備イメージ



静岡市

5大構想 ～世界に存在感を示す3つの都心づくり②～

海洋文化の拠点づくり



清水港周辺に集積する行政や企業等が連携し、海洋関連産業の振興を推進し交流人口の増加や地域の活性化を図ることで、国内外から人々が訪れる「国際海洋文化都市」の実現を目指す。

【にぎわい】
「観光やMICEによる
ウォーターフロントの活性化」

【研究開発・産業振興】
「海洋産業イノベーション
の推進」

【人材育成】
「将来の海洋人材の
集積・育成」



海洋文化拠点施設整備事業

「国際海洋文化都市」の実現に向け、世界に存在感を示す都心づくりを進めるため、清水港日の出エリアにおいて核となる(仮称)海洋・地球総合ミュージアムの整備を推進。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業の見直しを行う必要が生じた。今後、感染症対策などの新たな課題に対応した運営面、施設面の両方を見直しを図りつつ、PFI事業成立の環境の目途が立った段階で、事業再開を目指す。(事業再開は未定)

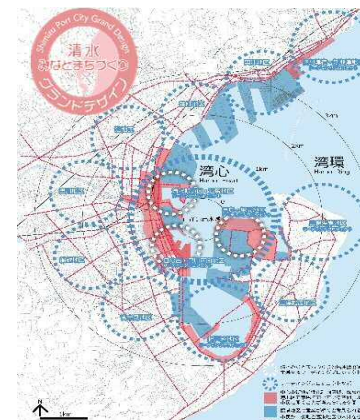


整備イメージ

清水みなとまちづくりグランドデザイン

県、静岡市及び地元企業6社は、平成30年4月に「清水みなとまちづくり公民連携協議会」を設立。

地域の将来像として、清水港及び周辺エリアがこれからの20年でめざす姿を描く、『清水みなとまちづくりグランドデザイン』を令和元年7月に公表し、市民、企業及び行政と一緒に清水の明るい未来を共有して、新しい「みなとまちしみず」を目指して活動している。



新清水庁舎整備事業

災害に強い防災拠点であると同時に、まちづくりの拠点となる新たな清水庁舎の建設の準備をしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業の見直しを行う必要が生じ、事務手続を一時停止した。

今後、ICTの進展により、行政サービスのあり方が大きく変わることが想定されることから、ポストコロナ時代を見据えた庁舎のあり方を検討していく。(事業再開は未定)



整備イメージ



静岡市

5大構想 ～世界に存在感を示す3つの都心づくり③～

教育文化の拠点づくり



JR東静岡・草薙駅周辺地区に、すべての人が高い教育を受けることのできる機会を創出し、地域経済の活性化を図るとともに、多くの若者が集まり、交流が生まれるまちを目指す。

JR草薙駅周辺整備事業

JR草薙駅の利便性を図るため、北口駐輪場の整備を実施するとともに、学生と地元住民が集まり、交流が生まれる「賑わい交流拠点」として、全面を芝生広場とした交流スペースを設けることで、さらなる賑わいの創出を目指す。



整備イメージ

東静岡「アート&スポーツ／ヒロバ」

3次総で文化・スポーツの拠点として位置付けた東静岡市有地(2.5ha)について、「賑わいづくりの実験場」として活用するための基盤整備及びローラースポーツ、アート、ホビーイベント等の展開を推進。



「アート&スポーツ／ヒロバ」の様子

スケートボード：
東京2020オリンピック
正式種目

「まちは劇場」の推進



静岡に根付いた大道芸や演劇・音楽などの文化・クリエイティブ活動を活かし、「わくわくドキドキ」するまちづくりを進め、ここに暮らす誇りと喜びを感じることのできるまちに成熟させる。



賑わい創出イベント推進事業

大道芸ワールドカップ、富士山コスプレ世界大会など、様々なイベントを通じて、国内外から多くの人々が訪れ、活発な交流が行われるまちの実現を目指す。



ナイトツーリズム推進事業

日本平からの夜景をはじめとする夜の観光資源の充実を図るとともに、夜間イベントの内容を充実させるなど、本市の魅力をアピールし、夜の賑わいを創出。



日本平山頂からの夜景

城北公園Park-PFI制度活用事業

城北公園が持つ多機能性を更に高めるために、民間事業者のアイデアを活用しながらカフェなどの飲食施設の設置により、魅力ある公園づくりを促進し、地域の賑わい創出を図る。



公園内カフェ社会実験の様子



静岡市

5大構想 ～生活の質を高める2つの仕組づくり～

「健康長寿のまち」の推進



人生100年時代を見据え、あらゆる年齢の人が住み慣れた地域で、いつまでも健康で人生を楽しむことができ、自分らしく暮らすことができるまちを実現する。

生涯活躍のまち静岡(CCRC)推進事業

シニアをはじめとして地域の誰もが、健康でアクティブな生活や社会活動への参加などを通じて、生涯活躍できる環境づくりに取り組み、住み慣れた地域でできる限り健康で自分らしく暮らすことができる「健康長寿のまち」を推進する。



地域福祉共生センター「みなくる」

高齢者就労促進事業(NEXTワークしずおか)

市役所内に官民連携の高齢者就労支援窓口「NEXTワークしずおか」を令和元年6月に開設。多くの元気な高齢者が健康長寿で企業や地域で活躍することができる環境整備を推進する。



開設1年で目標の2倍を超える
246人の雇用・就業に成功！

成年後見制度利用促進事業

一人暮らしの高齢者や認知症高齢者が増加するなか、市民が認知症などにより判断能力が低下しても地域で安心して自分らしく生活を営めるよう、「静岡市成年後見支援センター」を開設。

これにより、広報・研修、市民後見人の育成などを図るとともに、相談機能の一層の充実を推進する。



相談の様子

令和2年7月1日オープン！

認知症ケア推進体制整備事業

認知症に係る個別相談や専門機関との連携等を実施するとともに、認知症予防を含めた認知症ケアの研修・研究等を行う産学官民が連携する拠点として「認知症ケア推進センター」を開設。

認知症になっても、希望をもって暮らし続けることができるよう、本人や家族、全世代に向けた認知症の理解促進を図る。



施設イメージ図

令和2年10月末開設予定。

静岡市のSDGs推進に向けた取組 ～持続可能なまちづくりのために～



静岡市 5大構想 × SDGs

「SDGs未来都市」・「SDGsハブ都市」に選定

SDGsの普及

平成30年5月の2018国連ニューヨーク本部SDGs推進会議で本市の普及啓発の取り組みが評価され、7月のハイレベル政治フォーラムにて、アジア初の「SDGsハブ都市※1」に位置付けられた。これを契機に「SDGs普及啓発」と国連と連携した「世界への情報発信」をさらに推進。

平成30年6月15日、政府からSDGs未来都市※2に選定。

※1 ハブ都市（世界15都市）

SDGsの推進に向け、世界の地方政府による取組みを誘引するために、情報発信を含め、先進的な活動を行う都市

※2 未来都市（国内93都市）

SDGsを推進しようとする都市の中で、特に経済・社会・環境の3側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市



SDGs普及啓発への取組

・平成30年5月30日 静岡市長 田辺 信宏
国連ニューヨーク本部 SDGs推進会議に出席

SDGsの考え方を本市の施策に反映させる取組についてスピーチ（自治体初）
SDGsと市民との距離感を近づけていくことを自らのミッションとして表明

・平成30年7月17日 静岡市副市長 美濃部 雄人
国連ニューヨーク本部 ハイレベル政治フォーラムに出席

重点的にSDGsの普及啓発を図る「SDGs推進ウィーク」についてスピーチ

・令和元年6月6日 静岡市政策官 赤堀 文宣
国連ニューヨーク本部 SDGs推進会議に出席

「SDGs推進ウィーク」の成果についてスピーチ

・令和元年9月24日 静岡市副市長 小長谷 重之
国連ニューヨーク本部 ハイレベル地方自治体と地域行政フォーラムに出席

本市のSDGs普及啓発活動について国連メディアに情報発信



平成30年5月 国連ニューヨーク本部でのスピーチ



平成30年6月 SDGs未来都市選定証授与式（首相官邸）



静岡市

静岡市のSDGs推進に向けた取組 ～持続可能なまちづくりのために～



SDGs推進 TGC しずおか 2020 by TOKYO GIRLS COLLECTION

平成27年に国連総会で採択されたSDGs推進のためのTGC「SDGs推進 TGC しずおか 2020 by TOKYO GIRLS COLLECTION」を令和2年1月11日に開催。

2年目を迎え、より具体的にSDGsに取り組んでいきたいという想いを込め、SDGsの17の目標に沿ったコンテンツは静岡開催ならではの企画を展開し、静岡の魅力を全国に発信した。

「SDGs推進 TGC しずおか 2020 by TOKYO GIRLS COLLECTION」

経済波及効果及びパブリシティ効果

日 程：令和2年1月11日(土)
会 場：ツインメッセ静岡北館大展示場
来場者数：延べ約7,230人

経済波及効果(A)	2億3,400万円
パブリシティ効果(B) ※ メディア(テレビ・新聞・インターネット)を通じたPR効果(広告費換算)	20億1,118万円 (媒体数:2,487媒体)
計 (A) + (B)	22億4,518万円 前年比 +4億 242万円

「SDGs認知度調査」

調査日程：令和2年2月15日(土)
実施場所：JR静岡駅北口地下街など

SDGsについて	R1	H30
知っている	46.5%	28.8%
ロゴを見たことある	59.7%	36.2%



©SDGs推進 TGC しずおか 2020 by TOKYO GIRLS COLLECTION

SDGs WeekからMonthへ ～持続可能なまちづくりへの挑戦～

静岡市は「世界に輝く静岡」の実現を目指すための取組として、令和元年度は、平成30年度に実施した「SDGs Week」を発展させ、令和2年1月3日から26日までの約1ヵ月間を「SDGs Month」と位置付け、まちをSDGs一色に染め上げた。

2020静岡市成人式

項 目	内 容 等
日時・参加者	令和2年1月3日(金) 参加者:3,356人
概 要	新成人に向けたSDGsの普及啓発を目的とした企画を実施



高校生 × SDGs ～SDGs 考えるのは…あなたの番です～

項 目	内 容 等
日時・参加者	令和2年1月13日(月) 参加者:50人
概 要	市内高校生が学校の授業、生徒会及び部活動を通じて実践したSDGsの活動報告など



静岡市

新型コロナウイルス感染症対策

総額 854.6億円

(一般会計 853.0億円)

※R2年9月補正までの補正予算額

新型コロナウイルス感染症対策として、本市では、市民の生命を守ることを最優先にした「生命(いのち)のLife」と、日常を取り戻すための「生活(くらし)のLife」という2つの「Life(ライフ)」を守るための対策を実施。

いのち Lifeを守ろう

市民生活への支援

- 新型コロナなんでも相談ダイヤル開設
医療・生活・福祉・経済などあらゆる相談を総合的に受け付けるコールセンターを開設。
- 特別定額給付金給付事業
市民1人につき10万円を支給。



感染拡大防止対策

- PCRセンター設置事業
ドライブスルー方式で検体採取を行うPCRセンターを開設。
- 私立こども園・保育所等感染症拡大防止対策事業
私立こども園等における衛生用品の購入等に係る費用を助成。



医療・福祉への支援

- 介護サービス継続支援事業
介護サービス事業所等が介護サービスを継続して提供するために必要なかかり増し経費を助成。
- 高齢者施設等個室化改修事業
高齢者施設等における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、多床室を個室化する改修経費を助成。

くらし Lifeを取り戻そう

中小企業等への支援

- エール静岡事業者応援金支給事業
売上が減少している市内の全業種の中小企業及び個人事業主に、応援金10万円を支給。
- エール静岡観光事業支援金支給事業
売上が減少している観光関連事業者に事業継続のために必要な費用を助成。(1事業所あたり、上限50万円)



地域経済の活性化

- GoToしずおかキャンペーン事業
本市に宿泊する観光客を対象に、飲食、土産物の購入等の際に利用できる「GoToしずおか商品券」を配付。
- モバイル決済サービスを活用した地元消費拡大促進事業
モバイル決済サービス事業者と連携したポイント還元キャンペーンを実施。



その他の支援・対策等

- 小中学校学習用端末整備事業
ICTを活用した学習環境の整備のため、小中学校における学習用端末を1人1台配備。(新たに31,354台を配備)



静岡市

防災・減災の取組

消防体制の強化

消防救急広域体制の確立

平成28年4月の静岡地域3市2町(※)による消防救急広域化後、スケールメリットを活かし、消防体制の整備・充実強化を図ることで、地域の安全・安心を確保する。

※静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町



消防航空隊の活動

消防航空隊を編成し、日常的に発生する救急搬送、山岳遭難事故、水難事故などの消防活動や、全国規模の災害応援活動に対応。



消防ヘリコプター「カワセミ」

地震対策の推進

ブロック塀等耐震改修事業費助成

地震による倒壊、転倒の危険性のあるブロック塀等の撤去及び改善に係る費用の一部を助成することにより、倒壊による人的被害を防止し、公共の安全の確保を図る。

平成27年度から令和元年度の5年間で、808件を助成！



実施前



実施後

津波対策の推進

津波避難ビル指定の増加

津波避難ビルについては、東日本大震災以降、緊急津波対策事業において追加指定を推進。

〈指定の状況・延べ数〉

H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
123 施設	139 施設	142 施設	144 施設	147 施設	147 施設	149 施設



津波避難タワー等の整備

津波避難タワー等については、緊急津波対策事業として、令和2年度の整備をもって、全19箇所を整備完了予定。

全19箇所、8,410人の避難スペースを確保！

〈整備の状況・延べ数〉

H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
6箇所	11箇所	14箇所	16箇所	18箇所	18箇所	19箇所 (予定)



浸水対策の推進

河川改修・雨水ポンプ場整備

ゲリラ豪雨や台風に強いまちを実現し、市民の大切な生命と財産を守るために、浸水対策推進プランに基づき、河川改修や雨水ポンプ場を整備。



河川改修



静岡市

地域経済の活性化①

人口活力の維持

連携中枢都市圏(広域連携)事業の推進

静岡県中部地域の5市2町(静岡市、島田市、藤枝市、焼津市、牧之原市、吉田町、川根本町)の観光消費と宿泊の拡大に向けて、地域の強みを生かした観光商品の開発に取り組むとともに、観光目的地としての認知度向上を図る。



茶水プロジェクト 29店舗が参加

<茶水プロジェクト>

日本有数の茶所・静岡の夏を盛り上げる、お茶×かき氷のプロジェクト。静岡のお茶をかき氷で味わえる夏ならではのスイーツ企画。

<茶の間>

茶畑から望む静岡の絶景を、淹れたてのお茶とともに味わう体験型プロジェクト。



茶畑の中に設置した茶席「茶の間」

テレワークを活かした移住の促進

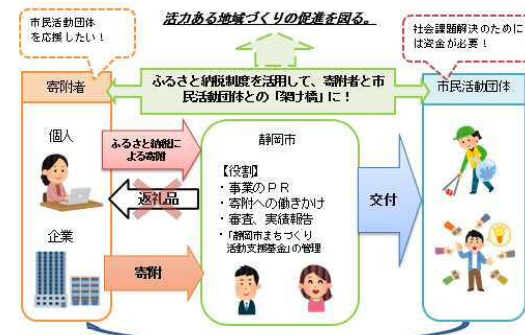
市内のコワーキングスペース・シェアオフィスにてテレワークを体験した場合に、施設利用料や宿泊費、静岡までの旅費を補助する「お試しテレワーク体験」など、「仕事はそのまま、住まいは静岡」をキーワードに、テレワークを活用した移住促進を図る。



お試しテレワーク体験

ふるさと納税制度を活用したNPO等の活動支援

ふるさと応援寄附金の寄附先として、公益的な事業を行う市民活動団体(NPO)や学(地)区連合自治組織などを指定し、自ら意欲的に取り組む市民活動を資金面で支援できる仕組みを創設することで、市民主体のまちづくりを推進するとともに、活力ある地域づくりの促進を図る。



「お茶のまち静岡市」プロモーション事業

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせて開設される2020ホストタウン・ハウスにおいて、「静岡市のお茶」をテーマにしたプロモーションを行うことで、「お茶のまち静岡市」の魅力を世界に向けて発信する。また、インバウンド誘客を目的とした本市のシティプロモーションを実施。



実演イメージ



出展外観イメージ



地域経済の活性化②

持続可能なまちの実現

静岡市移住支援センター

市単独では初めて、東京有楽町に「静岡市移住支援センター」を開設（平成27年4月）。
移住相談のほか、定期的に移住セミナー等を開催。主に首都圏在住者を対象とした移住をサポート。

- ・専属の移住相談員2名配置
- ・移住支援セミナーの開催
- ・移住フェアへの出展 ほか



移住支援センターの様子



移住フェアへの出展

<開設後センター経由の移住者実績>

H27	H28	H29	H30	R1	R2
16名 (9組)	52名 (29組)	88名 (37組)	47名 (23組)	49名 (25組)	7名 (3組)

※令和2年は7月現在

新幹線通学費貸与制度の創設

大学進学による若者の地元就職を推進するため、県外大学等への通学費の一部を貸与する制度を創設。

- ・市内から県外に通学する学生に、一月最大3万円を貸与
- ・卒業後、市民税の所得割を完納するなどの条件を満たせば返還を免除



東京まで新幹線で60分

H29.4月	H30.4月	R1.4月	R2.4月
178名	288名	393名	476名

「WeWork」を活用した企業誘致推進事業

定住人口拡大のため、コミュニティ型シェアオフィス「WeWork」を活用し、首都圏企業の誘致等の推進を図る。本市のシティプロモーションや市内企業のビジネスマッチングのための情報発信、イベントの開催等を実施。

平成30年10月、自治体として初めて都内の「WeWork」に入居



「WeWork」での本市主催イベントの様子

静岡型MaaS(マース)基幹事業実証プロジェクト

ICTによる公共交通サービスの高度化や、暮らし続けられるまちづくりに向けて、官民連携で「静岡型MaaS基幹事業実証プロジェクト」を組織し、実証実験を重ねMaaSの導入を目指す。

MaaSとは・・・出発地から目的地までの最適な移動手段を途切れなく提供する等、利用者にとって一元的なサービスとしてとらえる理念



相乗りタクシー実証実験

御幸町9番・伝馬町4番地区市街地再開発事業

JR静岡駅北口の新たな「顔」づくりとして、防災機能の向上、静岡駅から新静岡駅までの歩行者導線の強化に加え、専門学校を誘致することで、若者と周辺店舗棟との連携による新たな賑わい創出の拠点を目指す。

令和5年度末 整備完了予定



完成イメージ図



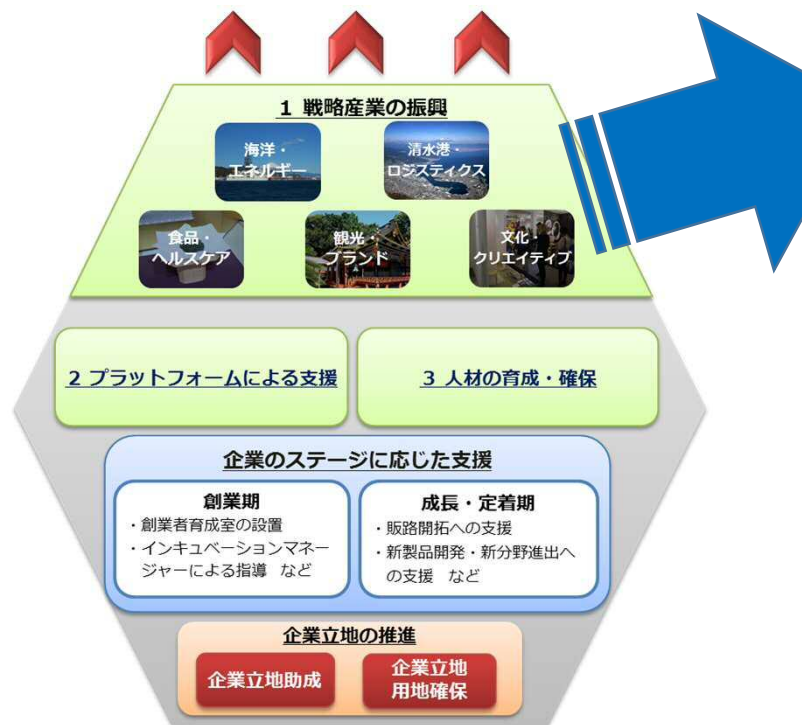
静岡市

産業振興の取組

第2次静岡市産業振興プラン

プランの目標(令和4年)

市内経済の活性化 → 市内総生産額 3兆2,140億円
雇用の創出 → 市内就業者数 343,100人



※戦略産業

社会経済環境の構造変化に直面し、今後も内外環境の一層の変化が予想される中、本市経済をけん引する力を秘めた産業を「戦略産業」と位置付けている。戦略産業の重点的な振興を通じて、その果実を本市の産業全体に広く波及させていく。

5つの戦略産業

海洋・エネルギー産業

■海洋産業クラスター創造事業

駿河湾という「海洋資源」、大学等研究機関の「知見」、清水港に関連した機械金属製造業や水産加工業等の「技術」を組み合わせ、海洋関連産業における静岡発の新事業創出を推進。



海洋研究開発機構
探査船「ちきゅう」

清水港・ロジスティクス産業

■ロジスティクス産業立地促進事業

東名高速道路、中部横断自動車道、清水港といった広域交通インフラ環境が整う本市の利便性・拠点性を活かし、首都圏等などの貨物を本市に集める「貨物の誘致」に取り組み、ロジスティクス産業の活性化、新規物流施設の立地を促進する。



清水港に寄港するコンテナ船

食品・ヘルスケア産業

■中小企業海外展開支援事業

人口減少・高齢化社会の影響により国内市場が縮小していく一方、海外市場では東南アジアを中心に経済発展が進んでおり、販路拡大を進める企業が増加。この状況を踏まえ、市内企業の海外展開を促進するための輸出機会等の創出を支援。



各種缶詰

観光・ブランド産業

■「ホビーのまち静岡」推進事業

本市の地域資源であるホビーを活用し、「ホビーのまち静岡」として市内外に情報発信することで、本市のブランド化及び地域経済の活性化を図る。



ツインメッセ静岡で開催する
静岡ホビショウ

文化・クリエイティブ産業

■若手クリエイター海外展開支援事業

次世代の文化クリエイティブ産業の担い手を育成するため、若手クリエイター(地場産業、伝統工芸の若手職人)と海外のデザイナーをマッチングさせ、試作品を製作し、若手クリエイターの海外展開を支援。



CCC(文化・クリエイティブ
産業 振興センター)での展
示

※5つの戦略産業には、主な事業を掲載



静岡市

行財政改革の推進① ～これまでの行財政改革の成果～

第1次行財政改革の成果(平成17～21年度)

職員数の減
420人

効果額
392億円

第2次行財政改革の成果(平成22～26年度)

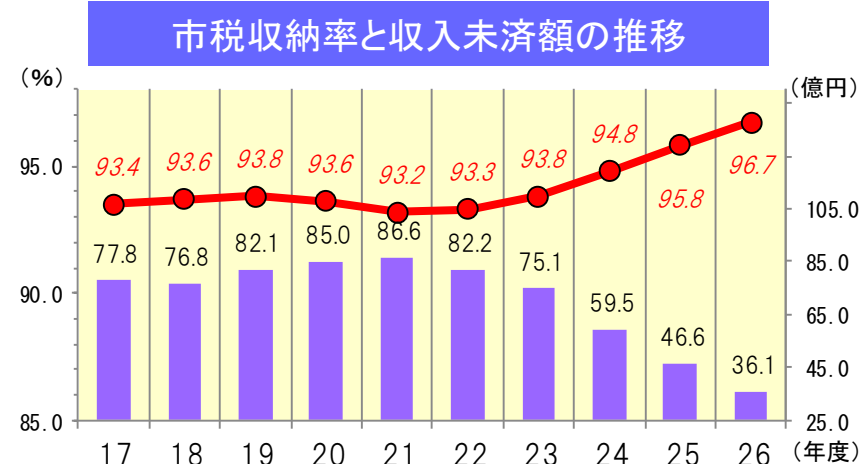
職員数の減
165人

効果額
555億円

対象項目

394項目

	効果額の主な内容	効果額
節減	給与制度改革・定員管理計画(人件費)	112億円
	事務事業の見直し・統廃合等	58億円
	補助金等の見直し	31億円
	民間活力の活用	24億円
	公共工事のコスト縮減等	236億円
収入増	未利用土地・建物等の売払い	25億円
	市税等の収納率の向上	11億円



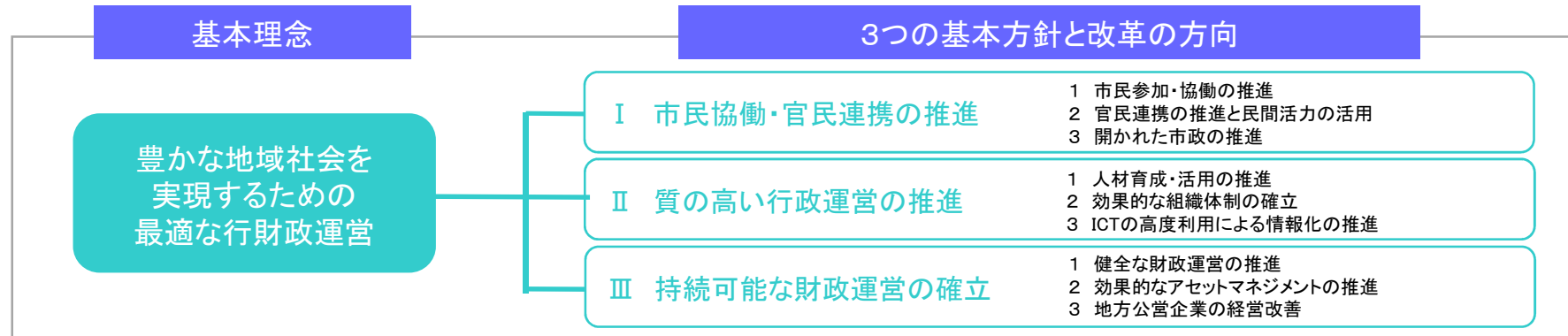
<収納率向上への取組>

- ・滞納案件に対する早期対応の強化
- ・滞納整理事務スケジュールに沿った進捗管理の徹底
- ・専門部署を設け、不動産公売等を積極的に実施



行財政改革の推進② ～これからの行財政改革の取組～

第3次行財政改革推進大綱(平成27～令和4年度)の概要



前期実施計画(平成27～30年度)及び後期実施計画(令和元～4年度)の主な取組と効果額

(百万円)

年 度		前期実施 計画効果額	後期実施計画					主な取組内容
			R1 実績	R2 見込	R3 見込	R4 見込	合計	
収入増額	計画額	11,054	1,375	1,939	2,197	2,485	7,996	○市税等の収納率の向上 ○競輪事業から一般会計への繰入 ○未利用地等の売却の推進 など
	実績額	13,553	2,108	—	—	—	2,108	
削減額	計画額	8,894	587	1,017	1,094	1,976	4,674	○施設等廃止等による維持管理経費の削減等 ○事務事業総点検表、2次評価等による事業見直し ○予算要求時のシーリングによる削減等 など
	実績額	9,264	395	—	—	—	395	
将来負担 の軽減	計画額	6,669	1,385	1,404	1,432	1,418	5,639	○アセットマネジメントの推進 (道路橋りょうの適切な維持管理 など)
	実績額	6,676	1,398	—	—	—	1,398	
合 計	計画額	26,617	3,347	4,360	4,723	5,879	18,309	
	実績額	29,493	3,901	—	—	—	3,901	
	達成率(%)	110.8	116.5	—	—	—	21.3	



行財政改革の推進③ ～これからの行財政改革の取組～

効果的なアセットマネジメントの推進

「静岡市アセットマネジメント基本方針」(H26.4策定)

基本方針1 総資産量の適正化

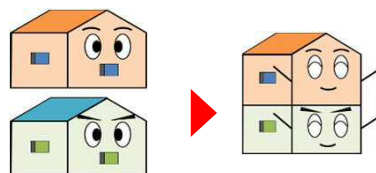
適正な施設保有量を実現するため
2043年度までに公共建築物の
総延床面積を20%縮減。

廃止



役割を終えた施設は…解体する

複合化



異なる施設を…一つの建物に

長寿命化

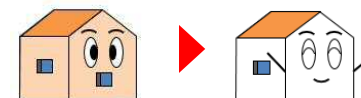


適正な維持管理の実施で…長持ちさせる

基本方針3 民間活力の導入

官民の役割分担を明確にし、民間企業
等の持つノウハウや資金調達により、
財政負担の軽減とサービス水準を向上。

民営化



民間へサービスを移管する

具体的な取組事例

三保生涯学習交流館、三保羽衣児童館 の複合化(H30.9供用開始)

生涯学習交流館の移転新築に伴い、新たに
設置する児童館との複合化を図りつつ、建物
全体の延床面積を縮減した。

旧生涯学習交流館



複合化



第2部 静岡市の財政状況

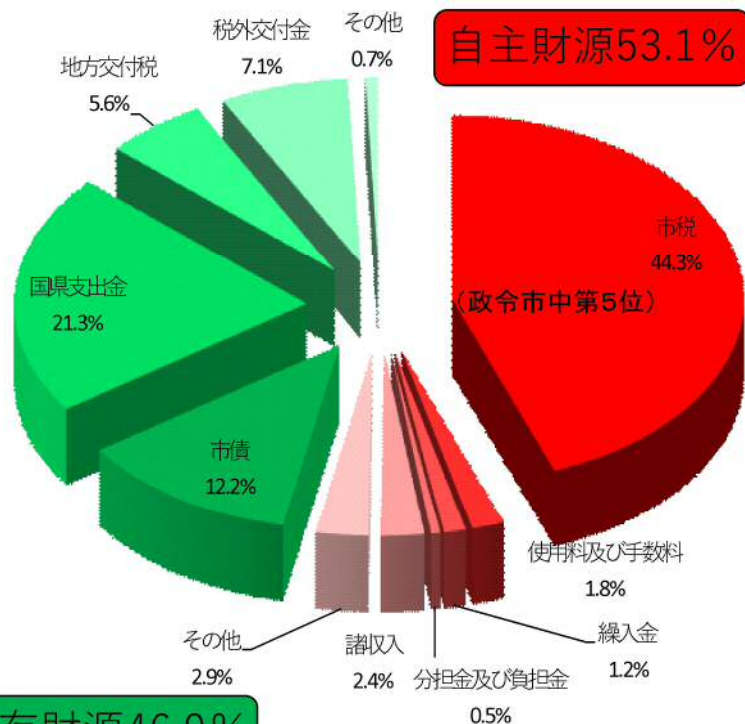
決算 ～決算の概要(令和元年度普通会計決算 歳入)～

歳入決算総額は3,217億円、前年度比87億円(2.8%)の増。

市税は1,426億円で27億円(1.9%)の増。市債は393億円で33億円(9.2%)の増。

国県支出金は685億円で21億円(3.2%)の増。

地方交付税は179億円で16億円(9.8%)の増。



主な歳入の状況

(単位: 億円、%)

	令和元年度	平成30年度	増減	増減率
市 税	1,426	1,399	27	1.9
内、個人市民税	570	545	25	4.6
内、法人市民税	115	119	△ 4	△ 3.4
内、固定資産税	535	530	5	0.9
内、都市計画税	107	106	1	0.9
税 外 交 付 金	229	261	△ 32	△ 12.3
内、地方消費税交付金	132	142	△ 10	△ 7.0
地 方 交 付 税	179	163	16	9.8
市 債	393	360	33	9.2
国 県 支 出 金	685	664	21	3.2
歳 入 合 計	3,217	3,130	87	2.8

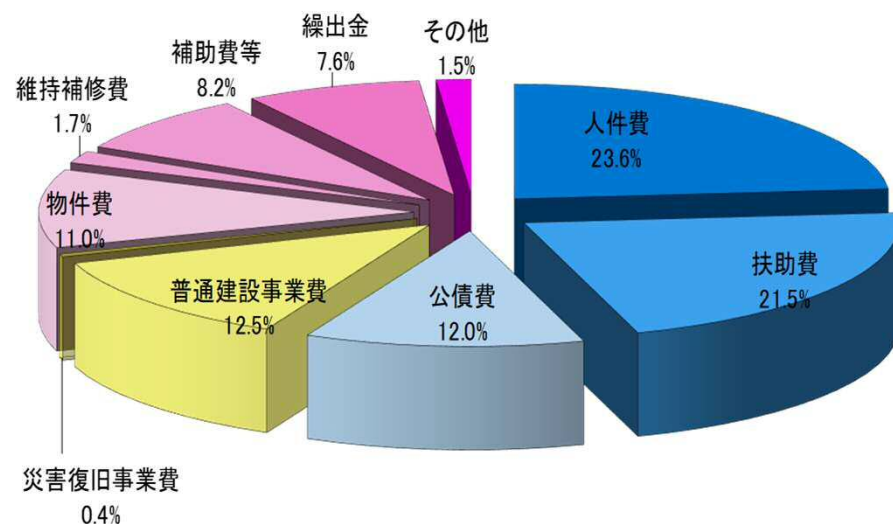


決算 ～決算の概要(令和元年度普通会計決算 歳出)～

歳出決算総額は3,136億円、前年度比89億円(2.9%)の増。

義務的経費は1,790億円で55億円(3.2%)の増。

投資的経費は406億円で24億円(6.3%)の増。



投資的経費12.9%

義務的経費57.1%

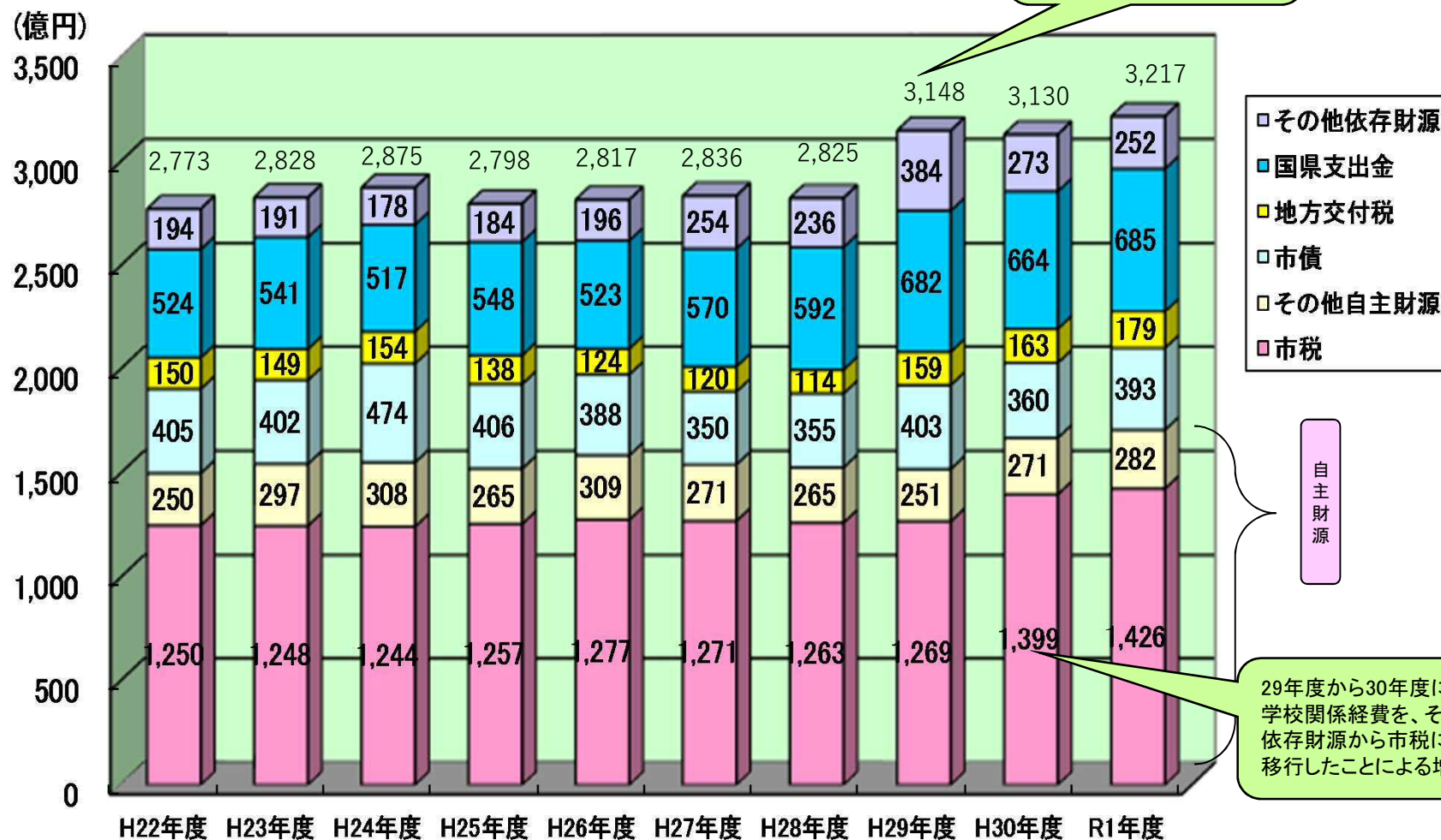
(単位: 億円、%)

	令和元年度	平成30年度	増減	増減率
義務的経費	1,790	1,735	55	3.2
人件費	739	730	9	1.2
扶助費	675	630	45	7.1
公債費	376	375	1	0.3
投資的経費	406	382	24	6.3
歳出合計	3,136	3,047	89	2.9



決算 ～決算の推移(普通会計 歳入)～

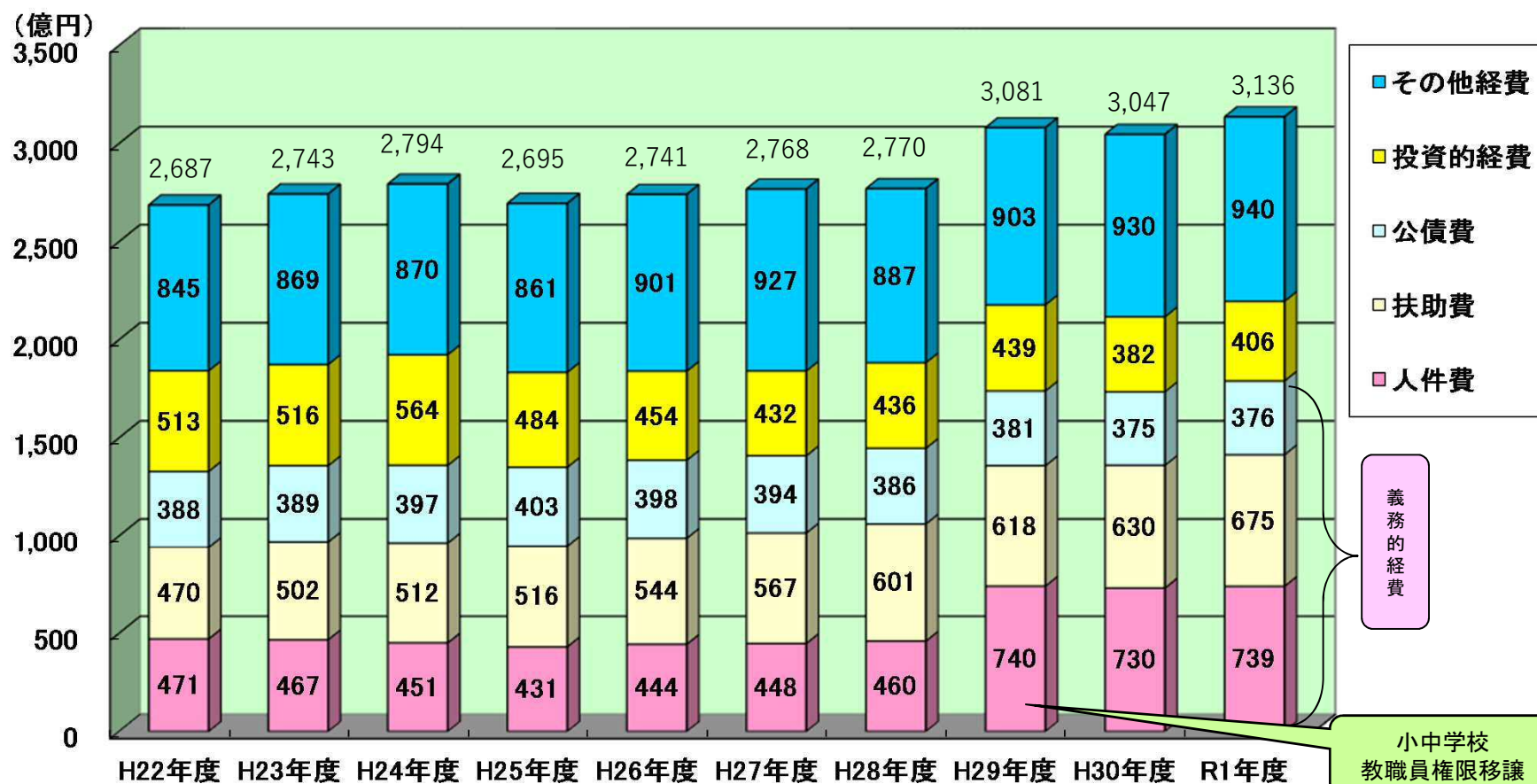
安定して自主財源を確保



静岡市

決算 ～決算の推移(普通会計 歳出)～

投資的経費は減少傾向。公債費及び人件費は横ばいで推移。
扶助費は増加傾向。

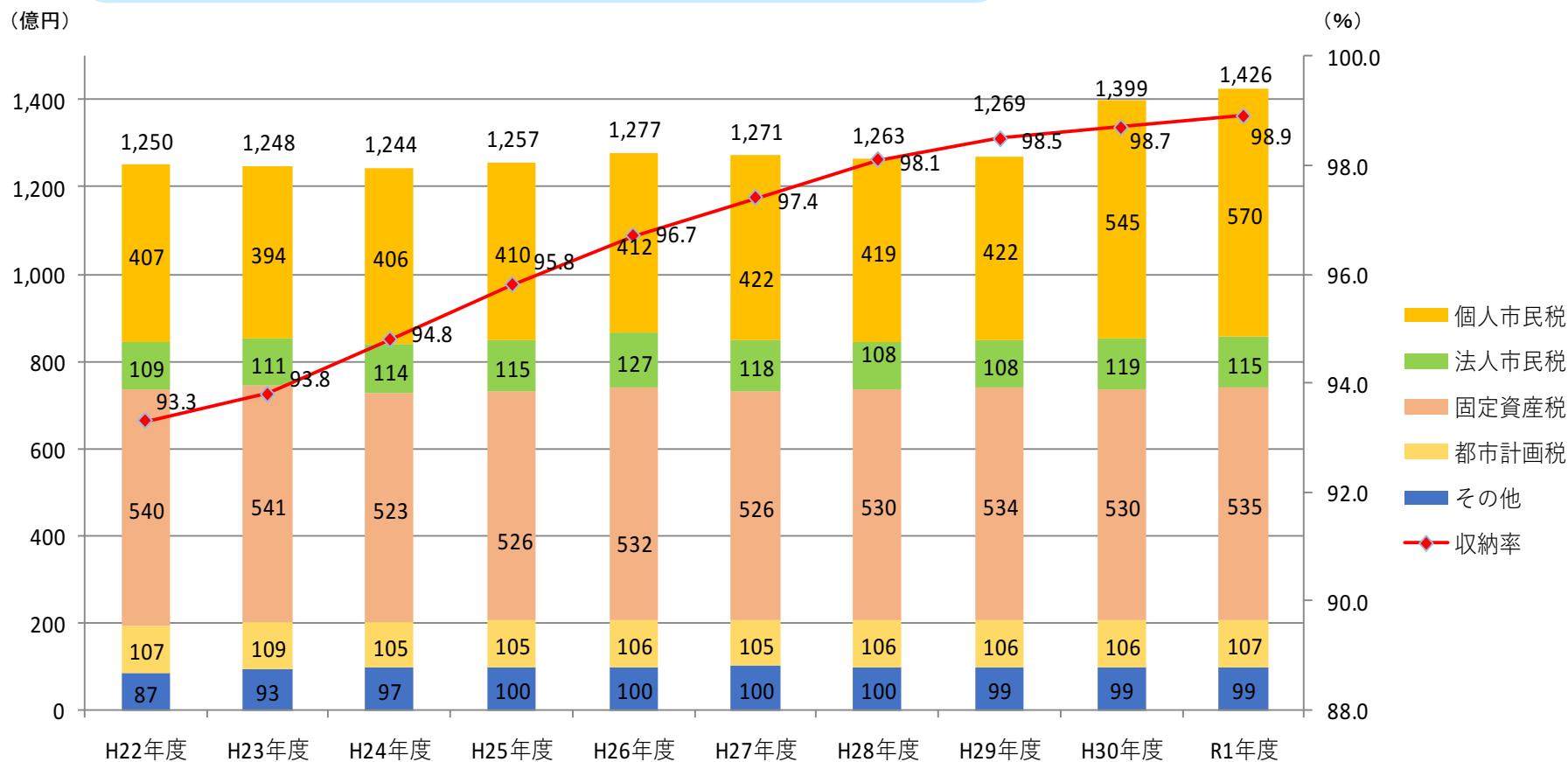


決算 ～市税の状況(令和元年度)～

市税の収納率は引き続き向上。総額は、個人市民税が小中学校教職員関係事務の財源移行や一人当たりの所得の増により増収。

<収納率向上への取組>

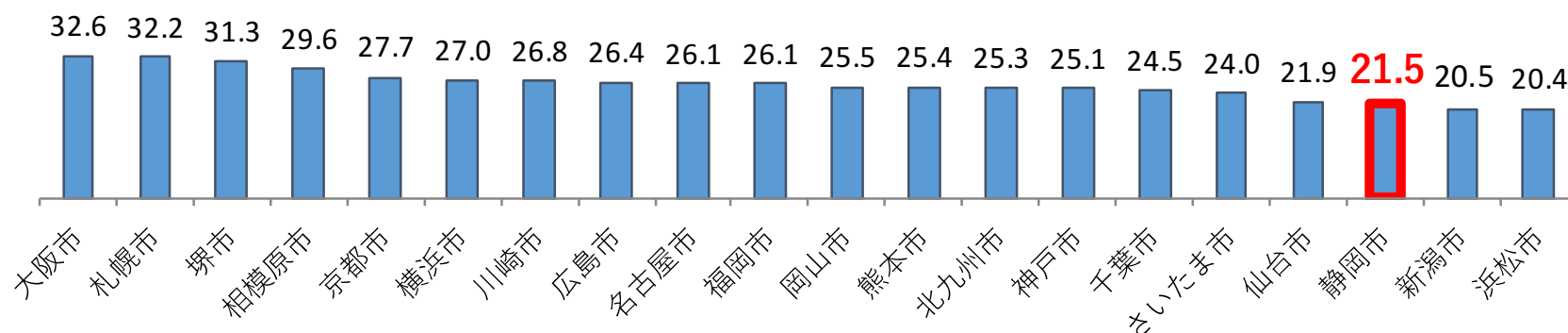
- ・滞納案件に対する早期対応の強化
- ・滞納整理事務スケジュールに沿った進捗管理の徹底
- ・専門部署を設け、不動産公売等を積極的に実施



決算 ～扶助費及び投資的経費の政令市比較(令和元年度)～

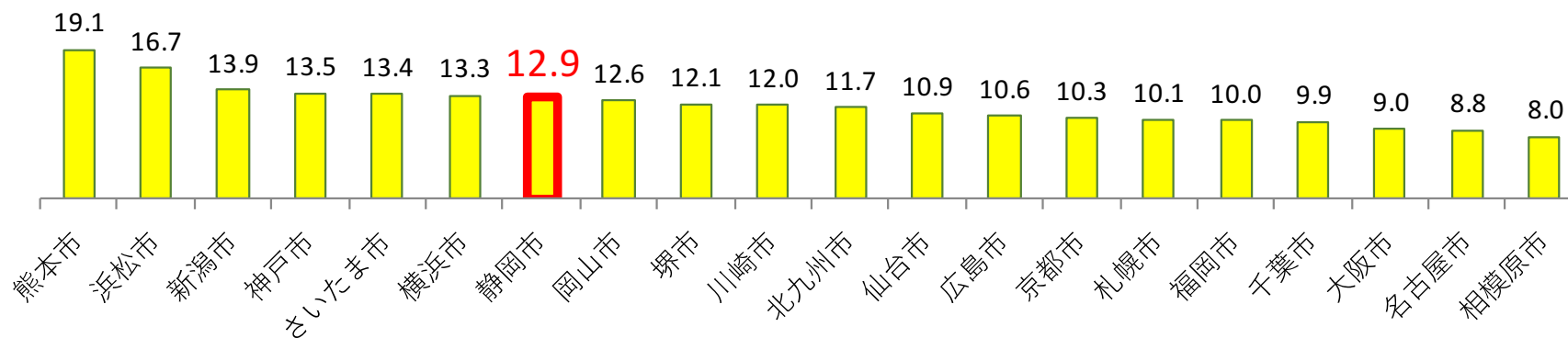
歳出総額に占める扶助費の割合は、政令市中3番目に低く、
投資的経費の割合は、政令市中7番目に高い。

歳出総額に占める扶助費の割合



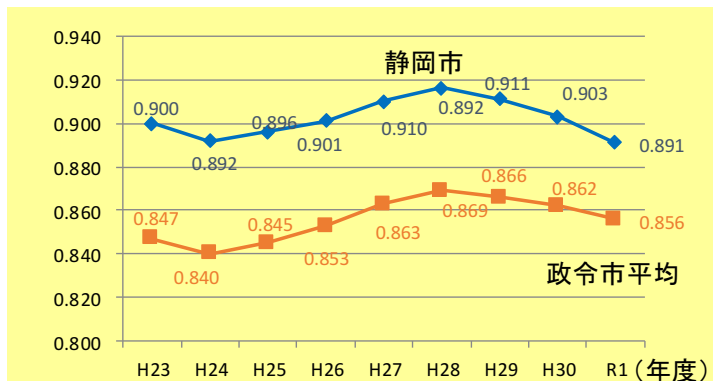
歳出総額に占める投資的経費の割合

(%)

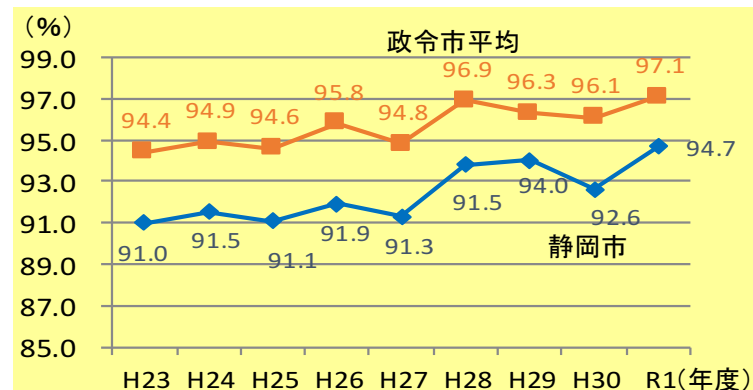


決算 ～財政指標・健全化判断比率の推移～

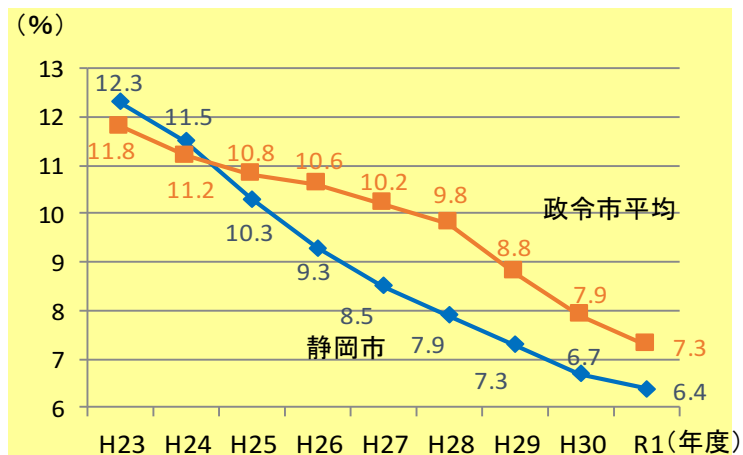
財政力指数



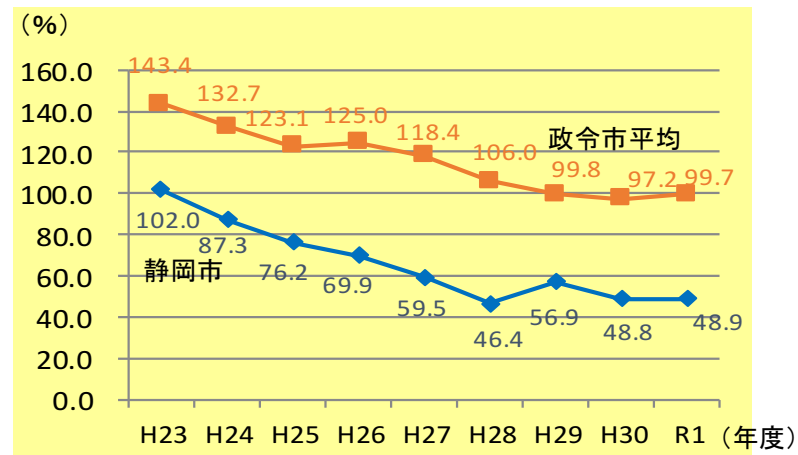
経常収支比率



実質公債費比率



将来負担比率



※ 実質赤字比率、連結実質赤字比率は、ともに「－」



静岡市

決算 ～基金残高の状況(令和元年度)～

基金の現在高

276億円

(残高624億円のうち、満期一括償還積立金は348億円)

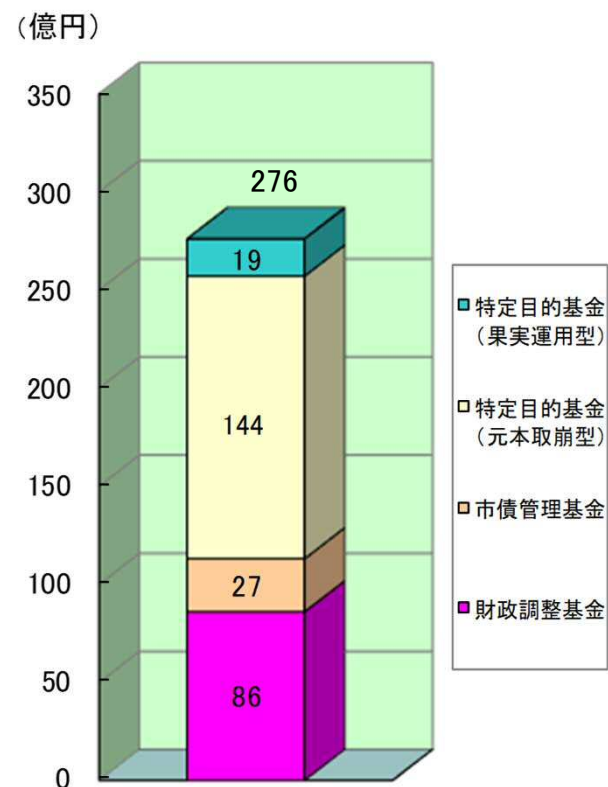
- 今後の公債費償還負担等を考慮し、年度間の財源調整を行うため、基金の残高を確保している。
- ※ 基金の現在高は、財政調整基金、市債管理基金及びその他特定目的基金の合計額。
財政調整基金 86億円、市債管理基金 27億円、
その他特定目的基金 163億円
- ※ 満期一括償還積立金348億円を含んだ場合の市債管理基金は374億円

市民一人あたりの基金残高

40千円

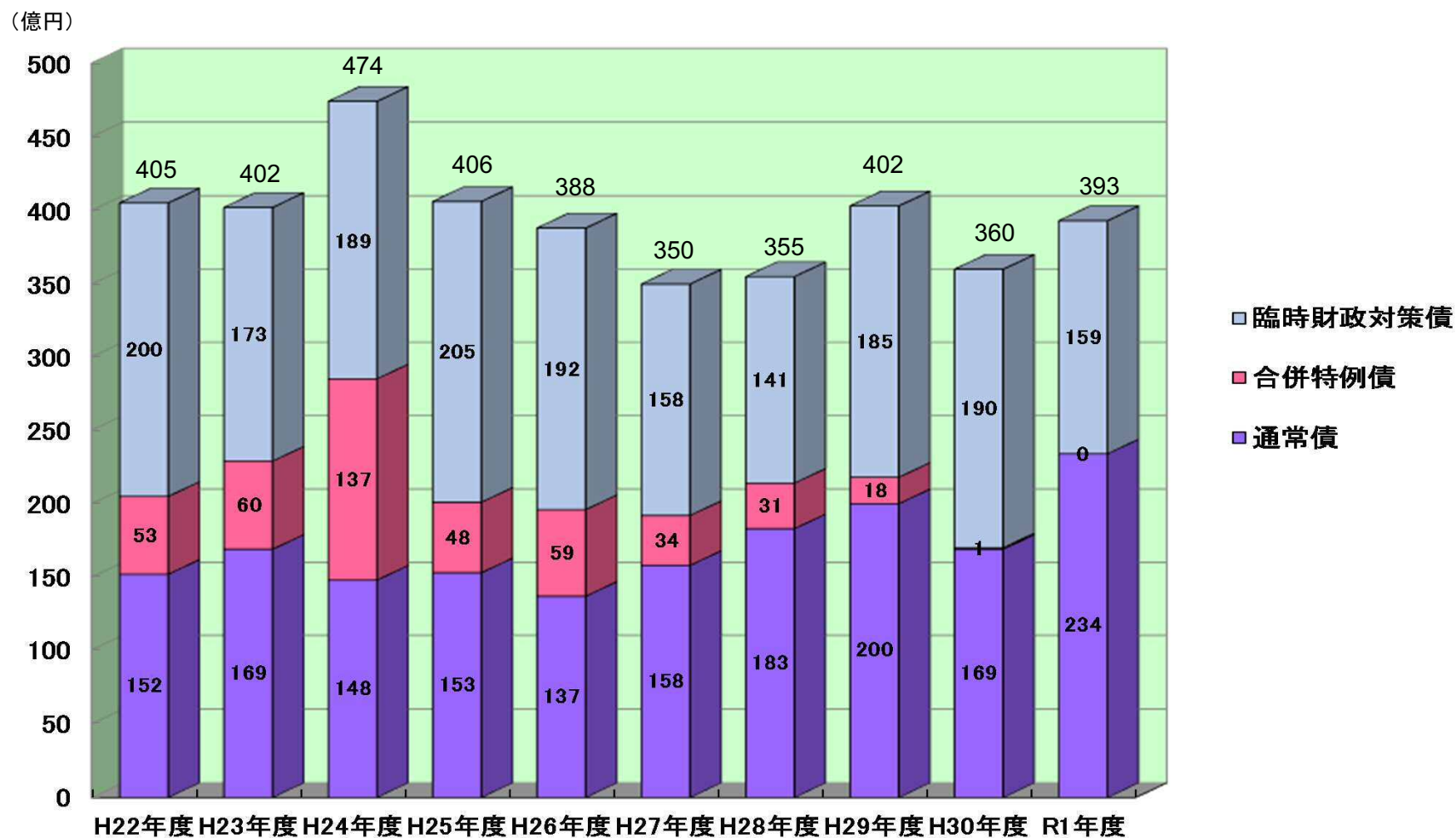
- 市民一人あたりの基金残高の政令市平均は39千円となっており、政令市の中では7番目に多い残高となっている。

令和元年度末基金現在高



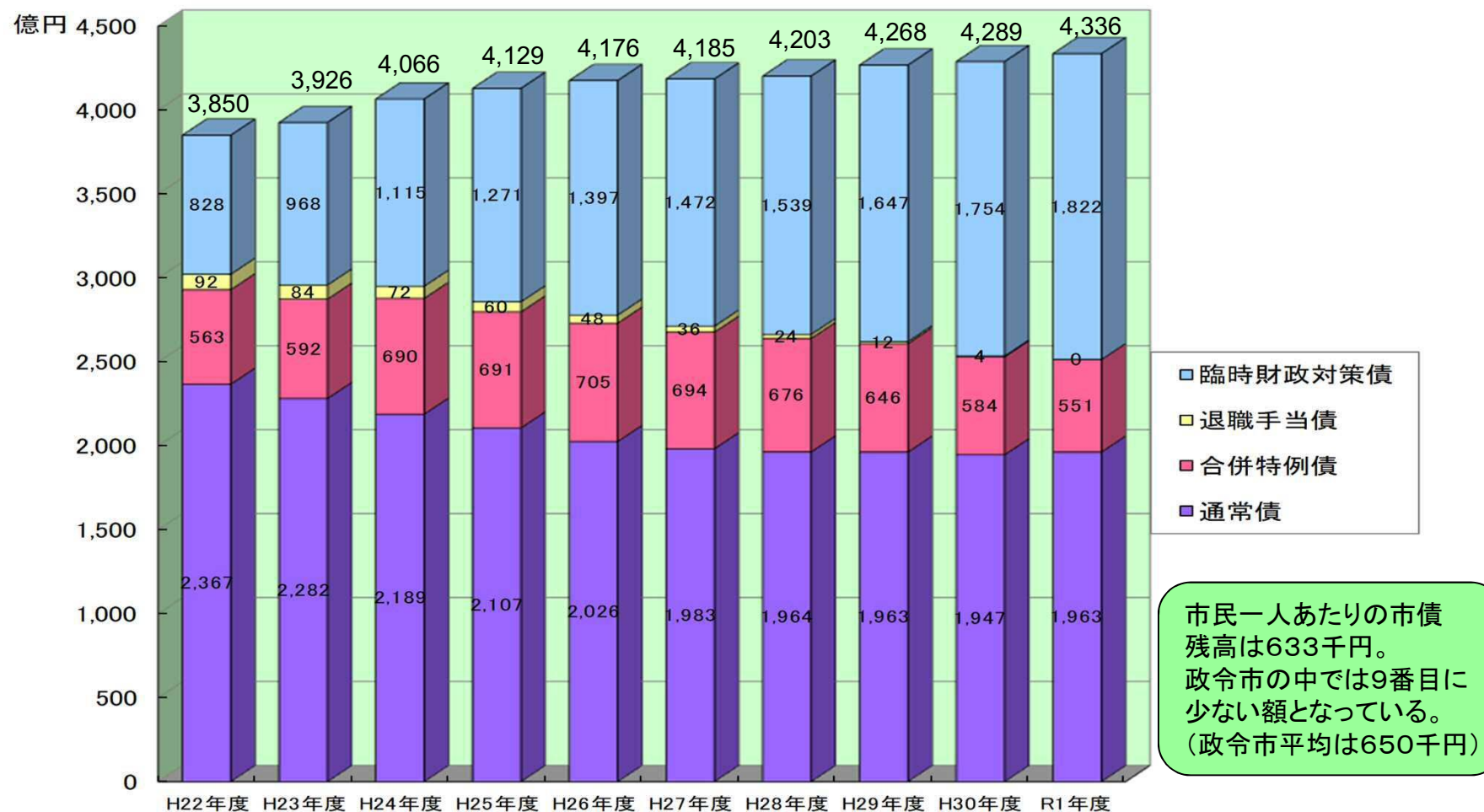
市債の状況 ～市債発行の推移(普通会計)～

事業を着実に推進するために市債を発行。令和元年度の通常債は、学校教育施設等整備事業債や緊急防災・減災事業債などが増加したことにより増額。



市債の状況 ～市債残高の推移(普通会計)～

臨時財政対策債の累増により、市債残高の総額は増加しているが、通常債の残高は、適正な発行管理により減少傾向にある。

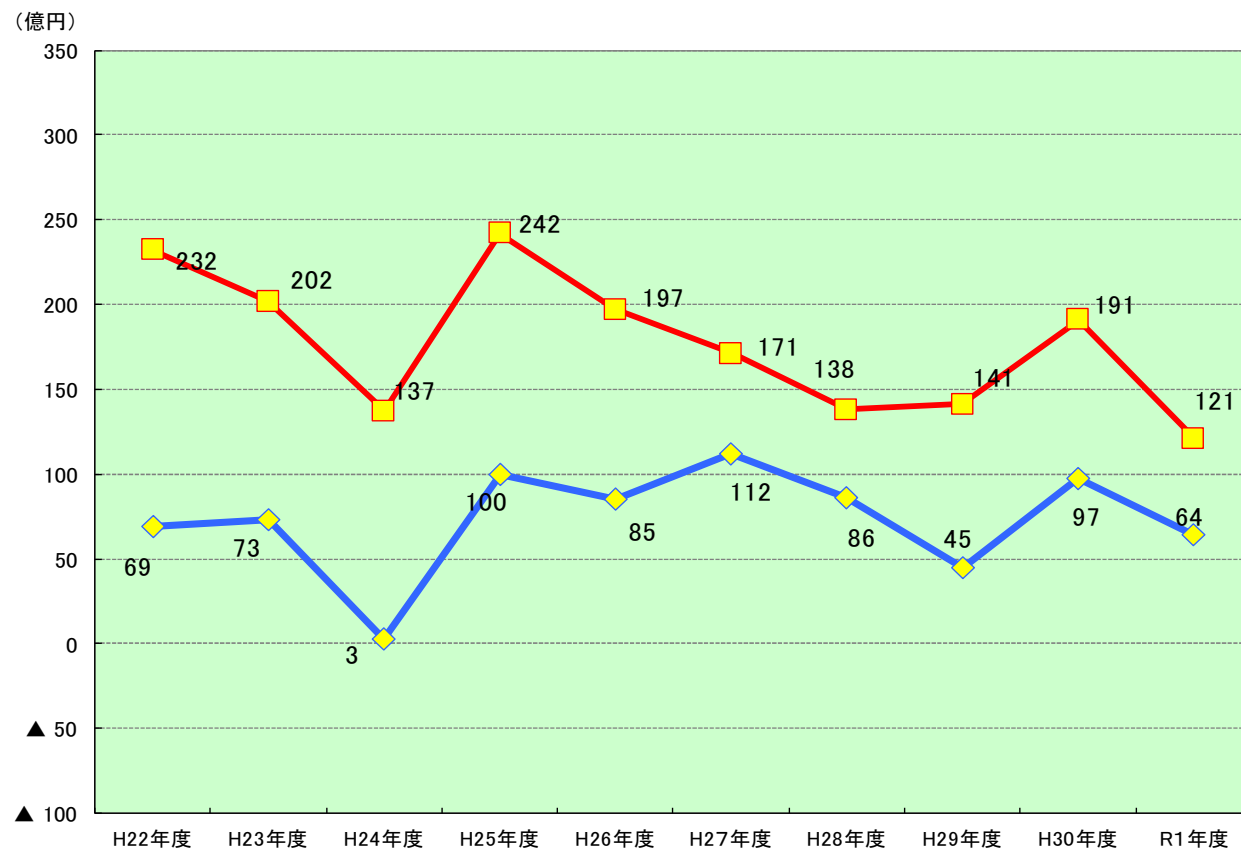


※満期一括償還方式で発行した市債の償還のための積立金は、償還したものとして市債残高から差し引いています。



市債の状況 ～プライマリーバランスの推移(普通会計決算)～

臨時財政対策債を含めても黒字を維持



プライマリーバランス(基礎的財政収支)とは、市債を除いた歳入と公債費を除いた歳出との差引額。

(歳入総額－市債)－
(歳出総額－公債費)

■市債に臨時財政対策債を
含まない場合
◆市債に臨時財政対策債を
含む場合

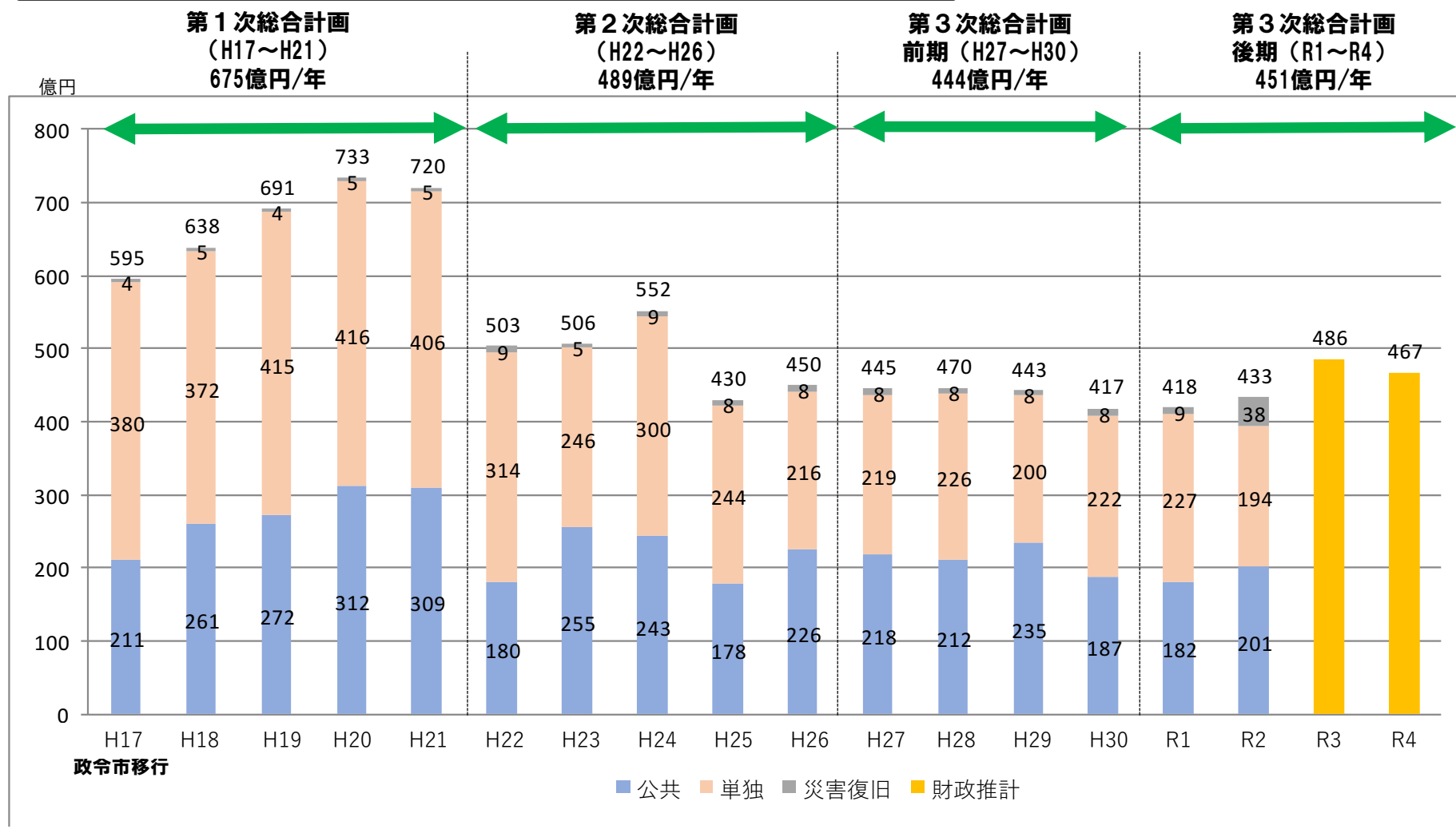
決算ベースで作成



静岡市

投資的経費の推移（当初予算ベース）～

○ 投資水準を抑制しつつも一定額を確保



財政の中期見通し(令和2年2月公表)～

○ 国の経済見通し等を基にした一定の条件により、令和2年度当初予算をベースに令和5年度までの財政収支を機械的に試算したもの。

1 試算の前提条件

(1) 期間及び対象

令和2年度から令和5年度までの一般会計予算

(2) 経済成長率

「令和2年度予算の後年度歳出・歳入への影響試算」(令和2年1月財務省)における名目成長率

令和2年度(令和元年度): +2.1% 令和3年度: +1.5% 令和4年度: +1.5% 令和5年度: +1.5%

2 試算方法

区 分		考 え 方
歳 入	市 税	名目経済成長率×弾性値(1.1) + 税制改正等影響分 (固定資産税・都市計画税は、個別に推計)
	地方譲与税・県税交付金等	名目経済成長率×弾性値(1.1) + 税制改正等影響分 (地方特例交付金は、個別に推計)
	地方交付税 (臨時財政対策債を含む)	現行制度を前提に推計 基準財政需要額は、臨時財政対策債元利償還額及び合併算定替の影響を考慮して推計 基準財政収入額は、市税等の増減に連動
	国・県支出金	原則として歳出推計額に連動
	市 債	原則として歳出推計額に連動
	その他の歳入	原則として令和2年度当初予算に特殊要因を加味して推計(財政調整基金等5基金からの繰入金は除く)
歳 出	人件費	新陳代謝等を踏まえ推計 退職手当は、現時点における退職者数の見込みに基づき推計 毎年の人事委員会勧告による影響額は反映していない
	扶助費	これまでの推移等を踏まえ個別に推計
	公債費	既発行分は積上げ 新規発行分は、10年債の利率1.0%を基準に推計
	投資的経費	第3次総合計画後期実施計画の進捗を踏まえ推計 災害復旧事業、その他の経費については、令和2年度当初予算をもとに推計
	その他の経費	原則として令和2年度当初に特殊要因を加味して推計 他会計繰出金は、個別に推計



3 試算状況

(単位:億円)

区 分		令和元年度 2月 現計予算	令和2年度 当初予算	令和3年度	令和4年度	令和5年度
歳 入	市 税	1,424	1,405	1,400	1,413	1,425
	地方譲与税・県税交付金等	254	287	303	308	311
	地方交付税(臨時財政対策債を含む)	333	324	316	301	290
	国・県支出金	736	745	731	729	736
	市 債	290	230	269	250	246
	その他の歳入	291	212	211	197	200
	歳入合計(A)	3,328	3,203	3,230	3,198	3,208
歳 出	人 件 費	760	788	785	771	763
	扶 助 費	727	738	742	744	745
	公 債 費	374	372	374	377	378
	投資的経費	506	433	486	467	481
	その他の経費	961	922	915	912	912
	歳出合計(B)	3,328	3,253	3,302	3,271	3,279

財源不足額(A-B)	0	△ 50	△ 72	△ 73	△ 71
基金充当額		50			

年度末基金残高見込額	128	78			
------------	-----	----	--	--	--

年度末市債残高見込額	2,643	2,631	2,699	2,725	2,760
(臨時財政対策債込み)	(4,492)	(4,530)	(4,607)	(4,655)	(4,708)

経常収支比率	95.1%	95.7%	95.9%	95.6%	95.2%
実質公債費比率	6.1%	5.9%	5.7%	5.8%	5.9%

※満期一括償還方式で発行した市債の償還のための積立金は、償還したものとして市債残高から差し引いています。

4 今後の対応

・第3次行財政改革推進大綱(平成27～令和4年度)に基づく取組の実施

(事務事業の見直し・統廃合、官民連携の推進及び民間活力の活用、公共事業等のコスト縮減、自主財源の確保、
市債発行額の抑制・市債残高の適正な管理、地方公営企業の経営改善)

・アセットマネジメント基本方針(平成26～令和25年度)に基づく第1次アクションプラン(平成29～令和4年度)の着実な実施

・雇用拡大・就労促進・健康づくりなどによる扶助費(生活保護扶助費等)の大幅な増加への対処 ・利用可能な基金等の活用



静岡市

お問い合わせ先

静岡市財政局財政部財政課

〒420-8602

静岡市葵区追手町5番1号

TEL 054-221-1026

FAX 054-221-1749

E-mail zaisei@city.shizuoka.lg.jp

※ 本資料に掲載する内容について、無断複写・転載はご遠慮ください